

環境マネジメント ボランティアプランと2000年度達成状況

環境保護活動を具体的に推進するための指針となるのが、1993年に策定した「日東電工における環境保護活動計画（ボランティアプラン）」です。各事業所は、この計画に沿って取り組みを続けています。廃棄物の削減については、2002年度の目標を2年前倒して、2000年度に達成しました。

2002年度の目標

2000年度の実績

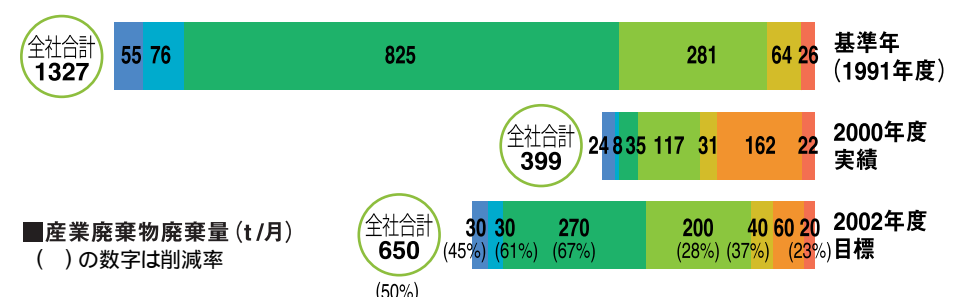
東北事業所 関東事業所 豊橋事業所 亀山事業所 滋賀事業所 尾道事業所 九州事業所

ボランティアプラン **1** **廃棄物を減らすために** P13-14に
関連記事

生産活動に伴って発生する廃棄物は、資源のムダ使いのみならず、処理の問題も抱えています。私たちは、歩留まり向上による産業廃棄物の削減を推進するとともに、産業廃棄物のリサイクルに取り組みます。

産業廃棄物の廃棄量：650t/月
(産業廃棄物の廃棄量を2002年度までに50%削減します。(1991年度比))
自家処理を前提に、リサイクル率を大幅に向上させることで達成可能な目標として定めたものです。

産業廃棄物の廃棄量：399t/月
豊橋事業所でのゴミゼロ達成や、関東事業所、尾道事業所におけるリサイクルの促進によって、2002年度の目標値をクリアしました。2001年度からは、上方修正した新たな目標に向けての活動をスタートします。

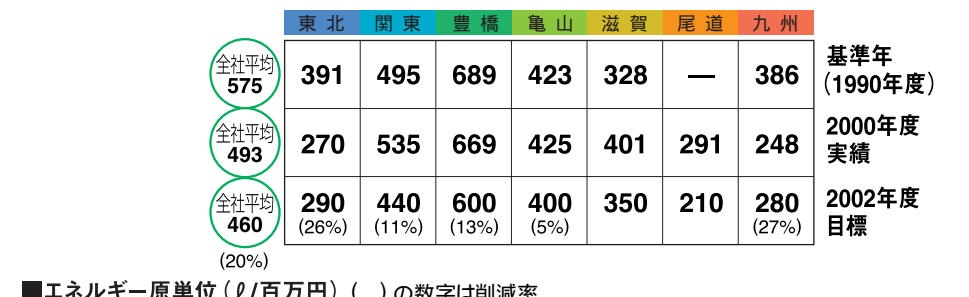


ボランティアプラン **2** **地球温暖化を防ぐために** P15-16に
関連記事

化石燃料の使用によりCO₂ (二酸化炭素)が増加し、地球温暖化を招いています。私たちは、エネルギー原単位*の向上による省エネルギーを推進し、CO₂排出量の低減を目指します。
*エネルギー原単位:燃料や電力などの使用量を原油換算したものを「エネルギー使用量」といい、「エネルギー原単位」は、生産高当たりのエネルギー使用量をいいます。

エネルギー原単位：460ℓ/百万円
(エネルギー原単位*を2002年度までに20%向上します。(1990年度比))
原油換算のエネルギー使用量を、生産高100万円当たり460ℓに抑えることを目標としました。エネルギー管理指定工場を中心に、コージェネレーション導入をはじめとする省エネルギー活動を進めることにより、達成できると予測した数値です。

エネルギー原単位：493ℓ/百万円
コージェネレーションの2号機が稼働を開始したことによって、豊橋事業所におけるCO₂の排出とエネルギー原単位が向上しました。また、関東、滋賀の2事業所では省エネ型のボイラーやコンプレッサーを導入するなど、全社的な取り組みを継続しています。

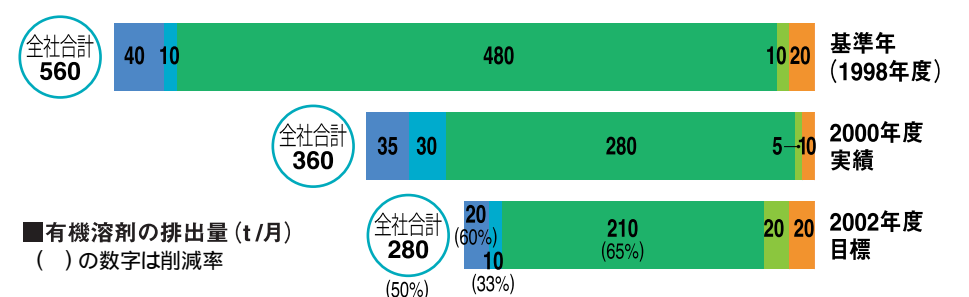


ボランティアプラン **3** **大気汚染防止のために** P17-18に
関連記事

私たちの基幹事業である粘着テープの製造では、多くの有機溶剤を使用します。有機溶剤は、大気へ揮発すると光化学オキシダントの原因になり、また酸性雨や地球温暖化の遠因になるともいわれています。有機溶剤の大気への排出量削減に、私たちは積極的に取り組みます。

有機溶剤の排出量：280t/月
(有機溶剤の排出量を2002年度までに50%削減します。(1998年度比))
1960年代からの取り組みをベースにPRTR制度の主旨も配慮して、化学物質の排出量管理を強化しました。目標値には、1998年度実績の50%カットを掲げ、最終的には限りなくゼロに近づけることを目指しています。

有機溶剤の排出量：360t/月
生産増にともない、溶剤の使用量は増加。しかし、無溶剤型粘着テープの開発や、溶剤回収装置の改修による効率アップなどによって、排出量は減少しました。また、グループ会社の日東シンコー(株)では脱臭炉を新規に導入しました。



ボランティアプラン **4** **環境保護のための国際規格** P19に
関連記事

国内全事業所で、環境保護のための国際規格であるISO14001の認証を取得しました。今後もグループ全体で認証取得を進め、環境マネジメントシステムに基づいた環境負荷の低減に努めます。

環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証取得に向け、2つの目標を掲げています。ひとつは、1998年度中に国内の全製造事業所が取得すること。次に、2000年度中に国内の全製造グループ会社が取得することです。

2000年度に本社事業所が認証取得。国内製造グループ会社は、1社を除き、全て取得しました。また、目標には含まれていなかった国内の販売会社は、6社が自主的に取得しました。

トピックス **ゴミゼロ達成へ、新目標を設定。**

産業廃棄物削減の2002年度目標を達成したことから、日東電工では従来の目標を上方修正する形での見直しを行い、新目標を策定しました。2001年度からは、この目標に向けて、全社の取り組みを一層加速させていきます。

新目標

- 再資源化率 **98%** 以上(2002年度) 「ゴミゼロ工場の達成」
- 発生抑制 2000年度は17%であった産廃原価比率*を...
2002年度には、**2ポイント**削減し15%に
2005年度には、**5ポイント**削減し12%にする

*産廃原価比率 = $\frac{\text{産廃原価(産廃そのものの材料費や加工費)}}{\text{生産高}} \times 100$

ボランティアプラン **5** **グローバルな活動を目指して** P20に
関連記事

私たちは、海外のグループ会社においても、日本国内と同様に環境保護に努めます。

海外の拠点については、経団連が示した「地球環境憲章」を基本とし、国内における対応と同等レベルの環境保護を行うことを目標としています。

1969年に設立した「台湾日東電工」などで、取り組みを推進中です。また、海外に新工場を建設する際には、環境に関するデザインレビューを実施して、計画・設計段階から日東電工と現地のエンジニアが自然環境に配慮しています。